

11月16日会合の意見補足

熊谷匡史

地方創生の観点から、地方大学に期待されていることとしては、地域発のイノベーション創出、地域産業を担う人材の育成等が挙げられている。

新産業創出の原動力としてのイノベーションは重要であるが、必ずしも先端的なものではなくても、地域企業が抱えている技術的、経営的課題のブレークスルーを支援することにも意味があるものとする。第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の記載にもある通り、地域の企業と大学が連携することで地域発イノベーションを創出し、魅力ある雇用機会を地域に生み出すことが重要であり、この点からしても、地方大学や地域企業の実情に応じて、イノベーションの目標には幅があってよいのではないかと考える。

地方大学に対しては、地域産業を担う人材育成や地元への若者の定着への貢献も期待されているところであり、これに対しては、リカレント教育を含め、地域特性を踏まえた魅力ある実践的教育プログラムの提供などの施策はあろうが、地域の産業振興に寄与することにより結果として実現していく観点も大きいと思われる。

地域の産業振興への取り組みにあたっては、地域の産業界、自治体をはじめ地域内の多くの主体や地域外の専門家、大企業等との連携が必要。特に地域金融機関は、各地域の産業や地元企業に精通しており、地方創生の重要な担い手として一層積極的な関与が求められる。従って、地域発イノベーション創出に向けた地方大学と地元企業の連携にあたっては、地域金融機関が有する地域のニーズ・課題認識、ネットワーク、人材、金融機能等を十分に活用することが重要である。

支援対象となる大学については、「地方創生に資する」こと、十分な連携についての強いコミットメントとともに、本会議で議論があったような組織的取組体制など、その実効性を担保する仕組み、工夫が求められるのではないかと考える。

以上

(参考)

・第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」

【基本目標1】 稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする

1-1 地域の特性に応じた、生産性が高く、稼ぐ地域の実現

(1) 地域資源・産業を活かした地域の競争力強化 (P30)

⑤継続的な地域発イノベーション等の創出

魅力ある雇用機会を地域に継続的に生み出し続けるためには、地域企業等によるイノベーションを継続的に創出し、地域産業の競争力強化を進めることが必要である。

これまでも政府を中心に様々なイノベーション施策が展開され、各地域においてもイノベーション創出の取組が行われてきているが、海外に比べてまだ広がりは不十分であり、大学等の昨日・リソースを十分に活用できているとは言えない状況にある。急速な技術革新の流れの中で、従来以上に地域の知の拠点である地方大学、研究機関、大企業等を巻きこみ、地域資源を活用したイノベーションエコシステムの構築に取り組む。また、産学官の連携による地域の資源と資金を活用した雇用吸収力の大きい地域密着型事業の立ち上げや、地域経済循環の拡大とともに災害時の自立エネルギー供給を可能とする地域エネルギーシステムの構築を進めるほか、未来技術の社会実装やシェアリングエコノミーを活用した取組を進めるとともに、地域の社会的課題を解決するために住民も巻きこんだイノベーションの推進に向けて新たな事業を立ち上げる地方公共団体の取組を支援する。